欧州経済を伝える

FBC

欧州企業 100 社にみる次世代技術・パートナー戦略

— 欧州企業は今、どの技術を求め、誰と組もうとしているのか —

2026 年 7 月

FBC Business Consulting GmbH

Germany

http://www.fbc.de

目次

エグゼクティブ・サマリー.....5

第 1 章　欧州企業を取り巻く環境.....6

1-1 欧州企業 100 社を分析する意義.....6

1-2 欧州企業を動かす主要要因.....6

1-3 技術ニーズと経営課題の関係.....7

1-4 規制は制約ではなく市場形成要因である.....8

1-5 パートナー戦略の重要性.....8

第 2 章　欧州企業 100 社の概要分析.....9

2-1　調査対象企業の選定方針.....9

2-2　調査対象企業一覧.....10

2-3　業界別構成.....15

2-4　国別構成.....17

2-5　企業規模・研究開発投資・公開情報の特徴.....19

2-6　分析の視点.....20

第 3 章　欧州企業 100 社にみる次世代技術ニーズ.....22

3-1　AI・デジタル化.....22

3-2　電動化・エネルギー転換.....23

3-3 次世代製造技術.....25

3-4 環境・循環経済.....27

3-5 先端デバイス・通信.....29

3-6 技術ニーズの総括.....30

第 4 章 欧州企業 100 社にみるパートナー戦略.....32

4-1 外部連携が技術開発の前提に.....32

4-2 連携形態の多様化.....33

4-3 研究機関・大学との連携.....34

4-4 スタートアップとの連携.....35

4-5 業界別にみるパートナー戦略.....36

4-6 パートナー戦略の総括.....37

第 5 章 100 社分析から読み取れる市場開拓上の示唆.....38

5-1 欧州企業 100 社に共通する技術戦略.....38

5-2 パートナー戦略にみられる共通点.....39

5-3 業界別にみた特徴.....40

5-4 総括.....40

Appendix A 欧州企業 100 社データベース.....41

図表 A-2 欧州企業 100 社データベース（No.1～25）.....41

図表 A-3　欧州企業 100 社データベース（No.26～50）.....44

図表 A-4　欧州企業 100 社データベース（No.51～75）.....47

図表 A-5　欧州企業 100 社データベース（No.76～100）.....49

Appendix B　欧州主要研究機関・大学・EU 研究開発プログラム.....50

Appendix C　略語一覧.....52

主な参考資料・出所.....53

エグゼクティブ・サマリー

欧州産業は現在、脱炭素、AI（人工知能）、デジタル化、経済安全保障、サプライチェーン再構築、防衛投資の拡大など、複数の構造変化が同時進行する大きな転換期を迎えている。こうした環境変化を背景に、欧州企業の競争力は個別技術だけではなく、複数技術を組み合わせたシステム開発能力と、多様な外部パートナーとの連携力によって左右される時代へ移行している。

本レポートでは、欧州の主要企業 100 社を対象に、各社の公開情報を基に重点技術分野とパートナー戦略を調査・分析した。対象企業は、自動車 OEM、Tier1、自動車部品、半導体、産業機械、ロボティクス、エネルギー、電力、化学、素材、建材、医療、防衛、ソフトウェア・通信など、欧州産業を代表する主要企業で構成されている。本調査では個々の企業動向を紹介するだけではなく、100 社を横断的に比較・分析することで、欧州企業に共通する技術ニーズや提携パターンを明らかにした。

分析の結果、欧州企業の重点技術は五つの分野に大別できる。第一に AI・デジタル化であり、設計、生産、品質管理、保守、業務効率化など、あらゆる産業分野で AI の活用が進んでいる。次に電動化・エネルギー転換であり、電池、水素、熱管理、パワー半導体、CCUS（Carbon Capture, Utilization and Storage／二酸化炭素回収・有効利用・貯留）、再生可能エネルギーなどへの投資が継続している。また、ロボティクス、AM（Additive Manufacturing／積層造形）、デジタルツインなどの次世代製造技術である。さらに循環経済や低炭素材料を中心とする環境技術であり、EU 規制への対応だけでなく、企業競争力の源泉として位置付けられている。最後に半導体、光デバイス、次世代通信などの先端デバイス分野であり、自動車や産業機械を含む幅広い産業との融合が進んでいる。

また、本調査では、欧州企業の技術開発は自社単独で進められるケースが少なく、大学、研究機関、スタートアップ、異業種企業、顧客企業などとの連携を前提としていることが確認された。共同研究、PoC（Proof of Concept／概念実証）、資本提携、M&A、共同事業、EU 共同研究プロジェクトなど、連携形態は多様化しており、企業規模を問わずオープンイノベーションが一般化している。

一方、日本企業にとって欧州市場は、単なる製品輸出先ではなく、技術連携や共同開発を通じて新たな事業機会を創出できる市場へと変化している。そのためには、自社技術を起点とする従来型のアプローチではなく、欧州企業が現在どのような技術課題を抱え、どのようなパートナーを求めているのかを理解することが重要となる。本レポートは、そのための基礎情報として、欧州企業 100 社の重点技術とパートナー戦略を体系的に整理したものであり、欧州市場への新規参入、共同開発先の探索、販売先候補の選定、研究開発テーマの検討など、幅広い用途に活用できる実務資料となることを目指している。